

## 第10回 箕面市小中一貫教育推進計画検討会議 記録

### 【日時】

令和5年（2023年）12月4日（月） 15:30～17:00

### 【会場】

箕面市役所 別館5階会議室C

### 【議事概要】

●事務局が作成した、小中一貫教育推進計画案について議論を行った。

#### ①施設形態も踏まえた今後の小中一貫教育の推進について

- ・ 特にご意見はなかった。

#### ②箕面市小中一貫教育推進計画第1章について

- ・ 今まで会議で出てきたものを整理していてわかりやすいが、箕面市の小中一貫教育の課題を書いているところで、課題を載せるだけでは、これからもこの課題が続いていくのではないかと、受け取ってしまう。解決方法も併せて書いた方がいいのではないかと思う。

#### ③小中一貫教育推進コーディネーターの配置についての議論

- ・ 小中一貫教育推進コーディネーターの配置について、注釈に「小学校推進担当者がコーディネーターを担う場合がある」と書かれているがどんな場合なのかがわからない。自校でコーディネーターを捻出する場合、来年度の人事のことも考えながらになるので、現場としては難しい。  
⇒（事務局）原則中学校からコーディネーターを捻出するというのが事務局の案であるが、よりふさわしい人がいる場合は小学校にお願いすることもある。中学校区の校長で相談して決める形がいいと思う。コーディネーターを配置することで、小中一貫教育について校区の業務が円滑に進み、校区全体としての負担軽減につなげることができればと考えている。

#### ④小中一貫教育の基本方針①教育委員会の観点「9年間を見通したカリキュラムの充実と4-3-2のアプローチ」についての議論

- ・ 指導計画上の工夫について、「市内統一カリキュラムによる子どもたちの体力向上」とあるが、今箕面市で活用している副読本はどういう扱いになるのか。  
⇒（事務局）小学校の副読本に関しては、うまく活用できている。カリキュラムも整理できている状況である。中学校はまだやっていることが学校によってバラバラなので、整理していく。
- ・ 非認知能力の育成の項目に、「箕面市の教員がこれまで大切にしてきた力」とある

が、あまり聞かない言葉。箕面市の教職員は知っている言葉なのか。

⇒（事務局）今まで箕面市として、書かれているような文言では打ち出してはいないが、こういう力は学校であれば当然つけようと思って取り組んでいる。

⇒（事務局）前回の検討会議で提案したアート教育という言葉が、現場からするとわかりづらいという話になった。そこで、アート教育という技術分野という数値化されない取り組みの中で、何を大切にして子供たちを育ててきたのか。まとめると非認知能力になると考え、提案している。

- ・ 文部科学省が「非認知能力は主に意欲・意志・情動・社会性に関わる3つの要素①自分の目標を目指して粘り強く取り組む。②そのためにやり方を工夫する。③友達と同じ目標に向けて協力し合う。からなる。」と定義しているが、事務局でわかりやすい言葉で表現した。
- ・ 非認知能力の育成について示されている3つの例について、学校の行事を中心に書かれているが、校区毎に行事を工夫することが9年間を見通した特色ある取組になるということか。  
⇒（事務局）箕面市で行っている i-check は非認知能力を測るもの。分析すると、行事等を工夫し、子どもたちが意欲的に取り組んでいるクラスや学校は、i-check の数値が上がっていく。
- ・ 非認知能力の育成のところ、事務局として一定の方向性やポイントを示し、学校側が整理していくといったような説明があればもっとイメージがわくと思う。
- ・ 4-3-2のアプローチについて、中学校学習内容に「知識・技能の活用を重視」とあるが、どういうことなのか。4-3-2の区切りで指導計画上工夫することはいいいが、中学校でも3つの資質・能力をバランスよく育成していかなければならない。この書き方では現場が混乱してしまうと思う。
- ・ 前期・中期・後期では、どんな違いや課題があるのか。施設一体型と施設分離校ではどうなのか。その課題を解決するために、どんな工夫が必要なのか。発達段階に応じた教育活動の工夫が小中一貫教育だと考える。課題は中学校区によって様々あるので、具体的に書きすぎるのはどうかと思う。
- ・ 指導計画上の工夫の内容について、例で示すのか、マストアイテムとして示すのかで書き方が変わってくる。「教科担任制を一部混ぜる」「50分授業を経験する」といったことは、中一ギャップを解決する取り組みとして、比較的やりやすい内容なのかなと思う。
- ・ 指導体制が学級担任制から教科担任制へと変わるその間に、一部教科担任制を導入するというのは具体的でわかりやすい。
- ・ 指導計画上の工夫は、授業形態や子供につけたい力、どんなことをどれだけ行うのかといったことを書けばわかりやすいのかなと思う。
- ・ 中期の捉え方など、施設一体型小中一貫校で働いたことがある先生にとってはイメージしやすいが、施設分離型の小中学校で働く先生にとっては難しい。

#### ⑤小中一貫教育の基本方針②「学校の観点」についての議論

- ・ 生徒指導の問題について、小中学校で連携を図っていくといったところは学校の観点で言うとどの取り組みにあたるのかがわかりにくい。  
⇒（事務局）中学校区での9年間を見通した指導計画を作成の中で、指導計画というと教科のイメージがあると思うが、支援教育や人権教育・生徒指導についても考えていく。現状でも学校毎に指導計画を作成していると思うが、分野毎にバラバラだったり、中学校区で系統立っていなかったりする部分もあるはず。中学校区で指導計画を作成することで、9年間を意識した指導に繋がると考える。
- ・ 不登校の対応について重点を置く方法もあるのかなと思う。その際、校区内のいじめや不登校の対策会議がある日が示された、1週間の動きがわかる表のようなものがあればイメージしやすいと思う。

以上